

あとがき

本書は、過去15年ほどのあいだに筆者が大学の紀要等に発表した論考を、「現代の社会経済システム——社会システム論と制度論——」という観点から選び出した11編の論文を基に構成したものである。論考のなかには発表時からかなりの年数を経ているものもあり、各章における数値データや内容等について、その後の現実や研究の変化を考慮に入れ、大幅に書き直すことも考えられたが、幸い本書全体の論旨の観点からはほとんどその必要はなかった。また、各章（論考）の表現や内容の統一性を尊重する観点からも、本書においては、各章の内容や字句の加筆・修正等は本書全体の論旨に照らして最少限にとどめ、各章を論考の発表順に構成し、発表時の表現や数値データをほぼそのまま掲載することにした。

さて、過去に発表した各論考をひとつの観点から構成し直してみると、各章（論考）が発表時の経済や社会、あるいは政治の状況に大きく影響を受けているにもかかわらず、その底流にある問題意識の面では一貫していたことを改めて感じさせてくれる。その問題意識の具体的現れが、社会主義体制崩壊後の「資本主義対社会主義」という枠組みに代わる「社会経済システム論」という新たな視座の提示や、現代アジアに相応しい社会経済システムのモデル（「地域内循環」モデル）の提示につながっているように思う。しかし、こうした点を含め、本書では極めて大きなテーマを扱っているだけに、論じたりない点や誤解している点など、数多くの問題点や課題を残していることと思う。読者諸賢からのご叱正を乞いたい。

このように不十分な本書も、恩師や先学からいただいた学恩、あるいは同僚諸氏や教え子たちから受けたさまざまな学問的刺激やアドバイス、ヒント等々、実に数多くの方々からの恩恵によってようやく完成したものである。ここではそのの方々を代表して、それぞれ筆者の学部時代と大学院時代の恩師

である武井昭先生（高崎経済大学名誉教授）と阪本靖郎先生（元神戸商科大学学長、現在関西国際大学教授）のお二人の先生に対して心から感謝申し上げたい。先生方からいただいていた学恩に対して十分に応えうる内容となっていないことを大変申し訳なく感じているが、今後の精進をお約束させていただくことで、お許しいただければと思う。

最後に、本書をこのような形で出版することをお認めいただいた関西大学出版部とその出版申請に当たって推薦の労をお取りいただいた関西大学教授の橋本昭一先生と加勢田博先生に対して、この場を借りてお礼申し上げたい。

2011年2月25日

著 者

初出一覧

プロローグ 書き下ろし

第1章 経済体制論と「制度経済学」

拙稿「経済体制論と『制度の経済学』」（『関西大学経済論集』第44巻第2号、39—63、1994年所収）を改題、加筆・修正

第2章 制度経済学・進化経済学・移行経済学

拙稿「制度の経済学・進化論的経済学・移行の経済学」（『関西大学経済論集』第45巻第5号、31—66、1995年所収）を改題、加筆・修正

第3章 経済システムと制度論—制度経済学を超えて—

拙稿「『経済システムと制度論—新制度派経済学を超えて—」（『関西大学経済論集』第47巻第3・4合併号、31—66、1997年所収）を改題、加筆・修正

第4章 社会システム論と制度論

拙稿「社会経済システムの変革とシステム論・制度論」（『関西大学経済論集』第48巻第3号、81—106、1998年所収）を改題、加筆・修正

第5章 社会経済システムと制度論—制度論の視点の根源性—

拙稿「制度と経済：制度の視点の根源性—」（駒澤大学仏教経済研究所『仏教経済研究』第29巻、315—330、2000年所収）を改題、加筆・修正、第3節は、書き下ろし

第6章 デジタル化社会と現代アジア—社会科学の転換と近代西欧文明—

拙稿「社会科学の転換と近代西欧文明—デジタル社会と現代アジア—」（『関西大学経済論集』第50巻第3号、35—62、2000年所収）を改題、加筆・修正

第7章 情報技術革命と社会経済システム変革の方向—ヴァーチャルからリアルへ—

拙稿「IT革命の本質と社会変革の方向—バーチャルからリアルへ—」（『関西大学経済論集』第51巻第3号、1—27、2001年所収）を改題、加筆・修正

第8章 社会経済システムの構造と現代社会の位置—価値基準の崩壊と外部基準の拡大—

拙稿「社会経済システムの構造と現代社会の位置—価値基準の崩壊と外部基準の拡大—」（『関西大学経済論集』第53巻第1号、1—25、2003年所収）を加筆・修正

第9章 経済文明と制度的変容—トータル・システムの危機—

- 拙稿「経済文明と制度的変容—トータル・システムの危機—」（『関西大学経済論集』第55巻第3号、37—63、2005年所収）を加筆・修正
- 第10章 アジアの時代の社会経済システム—近代西欧文明との比較を通して—
拙稿「東アジアの時代の社会経済システム—近代西欧文明との比較を通して—」（『関西大学経済論集』第56巻第3号、23—47、2006年所収）を改題、加筆・修正
- 第11章 現代アジアの社会経済システム—「第三のモデル」の可能性と必要性—
拙稿「極東アジアの社会経済システム—「第三のモデル」の可能性と必要性—」（武井昭・高橋正巳・竹下公視編著『仏教・経済・社会を問う』群馬書籍、近刊所収）を改題、加筆・修正
- エピローグ 書き下ろし

<著者紹介>

竹下 公視 (たけした・こうし)

略歴

1955年 鹿児島県に生まれる
1978年 高崎経済大学経済学部卒業
1985年 神戸商科大学大学院博士課程修了
現在 関西大学経済学部教授

訳書

A. リーヴ著 『所有論』 (晃洋書房、1989年) 共訳
D. C. ノース著 『制度・制度変化・経済成果』 (晃洋書房、1994年)
T. エッゲルトソン著 『制度の経済学：制度と経済行動 (上)・(下)』
(晃洋書房、1996年)

現代の社会経済システム —社会システム論と制度論—

2011年3月20日 発行

著 者 竹 下 公 視

発行所 関 西 大 学 出 版 部
〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35
電話(06)6368-1121 / FAX(06)6389-5162

印刷所 株 式 会 社 図 書 同 朋 舎
〒600-8805 京都市下京区中堂寺鑓田町2

© 2011 Koshi TAKESHITA

Printed in Japan

ISBN978-4-87354-510-3 C3033 落丁・乱丁はお取りかえします。